

おさかな瓦版 No.108 トラフグ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水産研究・教育機構 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2001577

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



すい さん けんきゅう きょういく ぎ こう ニュース レター
水産研究・教育機構 NEWS LETTER



／ かわらばん ／

おさかな瓦版

No. 108

2022.7



水産研究



ANNIVERSARY

トラフグ



ふーちゃんのトピックス

ウインクする魚

～フグのまぶた～

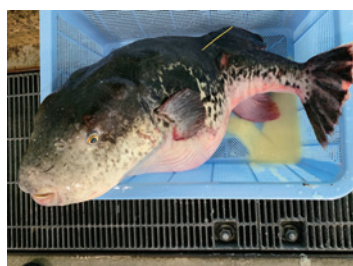


トラフグ

～よく知られているのに産卵はナゾだらけな高級魚～

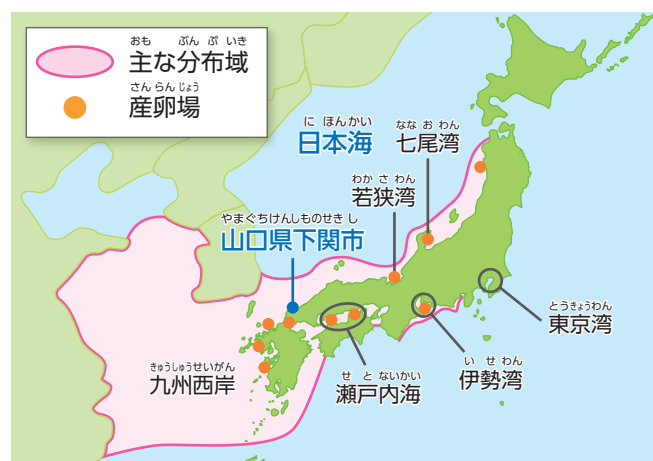
水産研究・教育機構のキャラクター、ふっくん、ふーちゃんでおなじみのフグ。今回はフグの中でいちばん値段が高く、正月には1尾10万円にもなるトラフグです。山口県下関市には、全国的に有名なトラフグをあつかう南風泊市場があります。トラフグは九州西岸から山口県の日本海側、瀬戸内海、伊勢湾などでとれます(★)。このごろは東京湾でも、卵を産みにきた親フグや稚魚がとれ、ニュースになっています。

親になると最大で80センチ弱、体重10キロ以上になり、寿命は10才以上です。トラフグの生活はまだわからないことが多く、とくに卵を



1 排卵中のトラフグのメス

産むことについてはナゾがいっぱいです。トラフグは毎年春になると、卵を産むために瀬戸内海などの沿岸にやってきます(🐟1)。人に見つかりやすい沿岸にいるのに、海の中で卵を産むところを見た人はいません。



★ トラフグの生息域

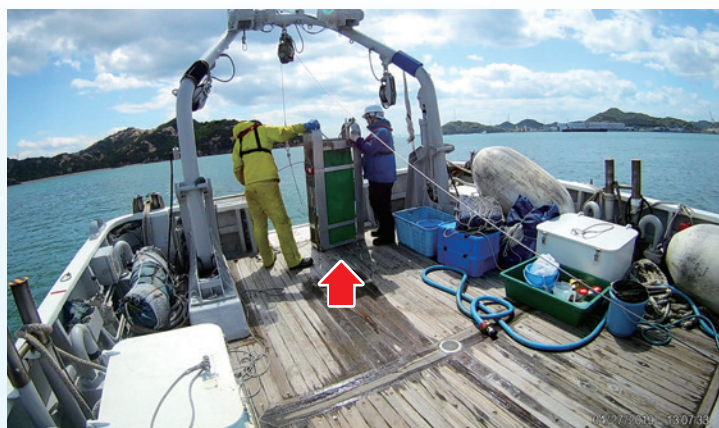
産卵期：3月下旬に九州南部から始まり、水温が上がると北上します。瀬戸内海での産卵期は4～5月。若狭湾や七尾湾は4～6月。



◀ チェック

天然のトラフグの卵(🐟3)をとる調査は漁業調査船「こたか丸」で行いました。小型のネットで、海底を数百メートル引っ張って採集しました。こたか丸は瀬戸内海の狭い海域でも小回りがきくので、沿岸調査に活躍しています。

トラフグの卵はどうやってとった？



こたか丸でのトラフグの採卵調査。中央のソリ状のネット(↑)で採集します

そこで、沿岸のどんなところで卵を産むのか調べるために、2016年から瀬戸内海にきたトラフグにデータロガー(🐟2)という小さな記録装置をつけて、トラフグが移動した海の水温や水深を記録しました。その記録と昔の記録(60年ほど前)を比べてみました。すると、卵を産む場所は水深約50メートルで2~4ミリぐらいの砂利があるところと予測できました。予測した結果をもとに、

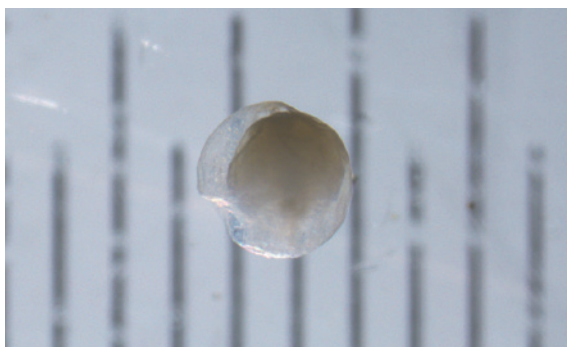
漁業調査船「こたか丸」(🟠チェック)で調査をしたところ、水深50メートルで1個、トラフグの卵がとれました(🐟3)。

残念ながら、まだトラフグが卵を産むところは見られないままですが、少しずついろいろなことがわかってきています。もしかしたら、みなさんの中にいる未来の水産研究者が、世界で初めて卵を産むところの撮影に成功するかもしれませんね。

※天然のトラフグは、1度に60~200万個ぐらいの卵を産みます



🐟2 データロガーをつけたトラフグ



🐟3 トラフグの卵 0.5ミリ

網でもまれて膜が壊れていますが、DNA分析により、トラフグの卵であることが分かりました



ひらい なりさと
平井 慈恵



あんじいの
ワンポイント
アドバイス

あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です

トラフグの一生は干潟から大海原まで

トラフグは水深50メートルぐらいの砂利のある海底で卵を産み、稚魚は成長すると岸近くの干潟※に寄ってくると考えられているのじゃ。実際に岡山県の子島湾、山口県の木屋川河口などの干潟では稚魚がとれておる。成長した後は、東シナ海や日本海などに出て大きくおいしく育つのじゃ。

※干潟：細かい砂や泥がたくさんたった波のおだやかな河口(川が海に流れ込むところ)や、湾の海岸などに、潮が引いたときにできる遠浅の浜のこと。



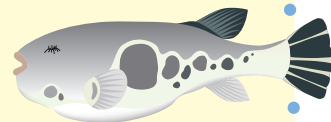
トラフグの稚魚がとれる干潟
(岡山県児島湾)



とれたトラフグの稚魚



干潟では手乗りサイズの稚魚がとれます



みなさんは魚が眠っているところを見たことがありますか？ほとんどの魚にはまぶたがなく、目を開けたまま眠ります。まぶたがないのは、水の中では目が乾きにくいからと考えられています。

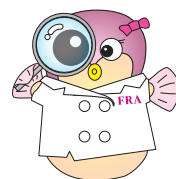
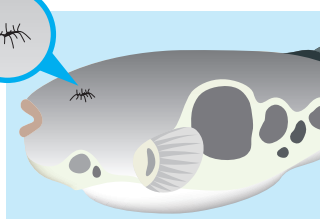
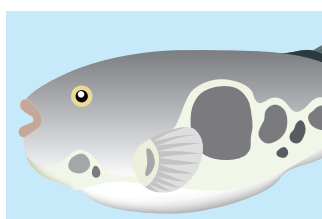
今回お話したトラフグは、まぶたをもつ珍しい魚です。フグのなかまは1回に4～5秒かけて、ゆっくりと目をつぶります。目をつぶるのは、砂が目に入らないよう、目を守るためと考えられています。人はまぶたを上下に閉じますが、フグのなかまはきんちゃくのひもをしぼるように「ぎゅっと」まぶたを閉じます。



目を開けたトラフグ



目を閉じたトラフグ



きんちゃくを
引きしぼるように
ぎゅっと
まわりから
つぶっていくよ。

その他にも、まぶたに似た体のつくりをもっている魚がいます。

サメのなかま



シロザメ

サメのなかまは獲物をつかまえるとき、「瞬膜」という膜を閉じます。これは獲物の反撃から目を守るためと考えられています。

ボラ



ボラは目に「脂瞼」という半透明の膜をもっています。この膜は閉じたり開いたりせずに、つねに目をおおっています。まだナゾが多いですが、視力をよくしたり、目を保護したりするためのものではないかと考えられています。



ふーちゃん と



ふっくん：あんじい仙人のもとで修行している研究員です

おさかな瓦版

No.108 (2022年7月発行)

編集・発行：国立研究開発法人 水産研究・教育機構

質問の送り先・お問い合わせ先：広報課

〒221-8529 横浜市神奈川区新浦島町一丁目1番地 25
テクノウェイブ100 6階

TEL.045-277-0136 (広報課) FAX.045-277-0015

ウェブサイト <http://www.fra.affrc.go.jp/>

Twitter



Twitter https://twitter.com/fra_go_jp

Facebook



Facebook <https://www.facebook.com/fra.go.jp/>

YouTube



YouTube <https://www.youtube.com/channel/UC1ITVAdqC6P9vmHAUieAN9Q>

表紙の写真



水槽で泳ぐトラフグ

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。